



彩の山

埼玉支部報 第40号

《題字 松本敏夫》

【目次】

《遭難を憂う》	大山光一	1	尾瀬ヶ原・原の小屋	高橋 努	26
山行報告			社会貢献委員会		
月例「堂平山・笠山」	行方真由美	3	クリーン登山	若林優子	27
山研山行「焼岳」	稲越洋一	5	全国支部懇談会に参加して	松本敏夫	29
トピックス・個人山行「劔岳」	轟 涼	10	古道調査・三峯参拝道	山崎保夫	30
別山尾根ルート	宮田しのぶ	10	山の本棚シリーズ⑧	小原茂延	32
早月尾根ルート	平本美恵子	12	ペンリレー 第4回		
月例「針ノ木岳・蓮華岳」	朝井紀久子	15	「山と私」	町田美春	34
秋山山行「飯豊山」	町田美春	18	新入会員自己紹介	林 信行	35
月例「燕岳」	町田美春	21	事務局より	林 信行	36
平日山行倶楽部			忘年山行のお知らせ		37
赤湯温泉	宮崎則子	24	編集後記	橋本久子	38
飯谷山	高橋 努	25			

《 遭難を憂う 》

支部長 大山光一

今夏も各地の山々で多くの遭難事故が発生しました。2023年7月～8月の山岳遭難件数(全国)は、前年同月比70件増の738件。遭難者は23人増の809人、うち死者・行方不明者は16人増の61人。遭難件数、遭難者ともに統計が残る1968年以降で最多(警察庁まとめ)です。

ご承知のことと存じますが、登山の原則は自力下山であり、想定外の事態には自力で対応しなくてはなりません。昨今の遭難救助要請は、道迷い、転倒、滑落、疲労、等々。登山装備が不十分な登山者が増加しています。

新型コロナウイルス5類への移行により、行動制限が緩和され、浅い登山知識と未熟な登山技術で難易度の高い山にチャレンジする登山者の増加が一因です。幾度か、山頂に辿り着けた経験で、次の高みを目指す。

従って、悪天候、体力不足、等々の想定外の状況に陥ると対応ができない。自然が相手の登山では、どんな状況下に置かれても、対処できる知識と経験を実践から学び、常に冷静な判断と決断を伴う行動力を備える必要があります。

低い山が安全で高い山が危険ということはありません。登山の行為は、すべて危険な行動が伴っていることを認識するべきです。天候の急変を想定して雨具を、日帰り山行でもヘッドランプを持参する。食料と水は少し多めに持って行く、等々。常に、最悪の状況を想定して登山の準備をすることが大切です。

過酷な自然と対峙する時、無力な人間の弱さ、脆さを思い知らされます。南極の-50℃を超える寒気とか人間が常駐できない、ヒマラヤの高所登山は、標高5000mで酸素は地上の約半分、8

000mを超えると1/3以下、そんな極限の世界で自分の可能性を求めてチャレンジする。

そして登頂を果たし、五体満足で生還する。簡単なようで、これがなかなか難しい。「登り4割、下山6割のペース配分」、山頂はゴールではありません。「生と死」が隣り合わせの極限の世界で高所登山を実践するためには、日々の訓練は勿論ですが、高所登山に適応する体力と高度な登山技術を備えていなければヒマラヤでは通用しません。

勿論、国内の登山でも、自然が相手の山登りは同様の能力が要求されます。体力や技術はもちろんですが、どんな状況下でも対処できる、対応できる能力を備えることです。難しいことではありません。山を登り山から学ぶことで、知識と経験を得ることができます。その積み重ねが判断力や決断力を支えています。

安全な登山などありません。経験の浅い登山者の多くに共通していることは、体験という経験が少ないので、自分で判断ができない、自分の技量(実力)が判らない。多分、大丈夫だろうという曖昧な判断基準でチャレンジや行動して道迷い、滑落、疲労困憊、低体温症、等。自分で解決ができない状況に陥ってしまう。遭難のパターンは容易に想像できます。正しい登山知識と登山技術を学ぶ機会が少ないことも一因です。

このような状況下、支部委員会では、本部の指導者養成講座や加盟団体主催の研修会や講習会への積極的な参加要請を推進しています。多くの学ぶ機会を通して、組織の活性化に繋げる一助としたい。残念なのは、3年間の準会員制度の弊害？登山の知識や登山技術を習得したら組織を離れる傾向があります。

日本山岳会に50年の在籍を経て想うのは、登山活動や組織運営を支えてきた先輩から後輩へと受け継がれた古き良き時代の伝統が、失せてきた一抹の寂寥感を覚えることです。

現状の課題は、埼玉やま塾の卒業生が増加する一方で、登山技術のレベルアップを図る仕組みがありません。参加するだけの登山では、山歩きに慣れる範囲、そこに大きな成長はありません。従って、意欲的に登山を実践したい人材が、高みを求めてステップアップできる機会を構築する必要があります。それは組織を担うリーダー、そして指導者の育成に繋がるからです。

また、登山計画を立案する場合のルールへの遵守。責任を明確にするためリーダー及びサブリーダーは必ず決める。参加者もリーダー(サブリーダー)の指示に従うことが安全登山を遂行するための必須条件です。関係者への登山計画書(届)の提出ならび下山報告の徹底、等々。

一方、登山計画書は余裕を持った作成と申請をお願いしたい。当日の申請では、不在時もあり本部への事前提出ができない場合があります。受理した登山計画書の記載内容や参加者の技量の有無、コースや日程、等々。必要に応じて、確認やアドバイスの時間が欲しいからです。

従って、自分たちの力量に沿った安全登山の実施。正しい登山知識と最新の登山技術の習得に留意して、「登りたい山ではなく、登れる山」の登山計画を立案されるようお願いいたします。

ひとり一人が、「仲間の安全、家族の安心」を意識して絶対に事故は起こさない。そして体力や技術は勿論ですが、新たな学びと新たなチャレンジをする登山者が、埼玉支部が求めている自立した登山者です。

【山行報告】5月度月例「堂平山・笠山」

山行委員 行方真由美

＊日程：2023年 5月27日（土）

＊場所：埼玉県 堂平山 875m 笠山 837m

＊参加者：（敬称略）立原由子、宮崎則子、吉田湖恵、（CL）行方 真由美、（SL）小玉 和孝

＊行程：白石車庫バス停 8:45⇒9:40 定峰峠 9:47→10:50 白石峠 10:55→11:10 剣が峰 11:20→

11:37 堂平山 12:30→12:56 笠山峠→13:14 笠山→14:25 白石車庫バス停登山口

担当 小玉・行方

晴れ、予想最高気温 27℃、下見山行なし。

小川町から小玉さんの車に乗車させて頂いて白石車庫まで向かう。白石キャンプ場に車を置いて登山スタート。舗装道路歩きから登山道へ入る、きっと入口の標識はあると思っていたが登山口のすぐ近くに別の経路に向かう開けた道があった為、勘違い・・・しばらく地図と YAMAP アプリで確認する。少し戻ったところに草が生い茂ったところに入口を発見する。

無事に歩き始められたことにホッとする。地図を確認しながら歩いていたが剣が峰付近で左折するところを直進してしまい2度目の道間違いをしてしまっている。

無事に堂平山到着！山頂の開けた先には日光方面まで見渡せる景色が素晴らしかった。さわやかな風が心地よく、堂平山からの景色を眺めながらゆっくりと昼食をとり笠山峠へ、笠山では木漏れ日を楽しんで下山。予定していた下山ルートは通れず笠山峠まで戻ってから白石車庫へ向かった。

予定より少し歩行距離が延びてしまった。下見なしで行った山行、参加者全員で地図を確認&相談しながら歩く。頼りないリーダーで不安に感じてしまったかと思いますが、温かい言葉を頂きながら協力して無事に終わったことに感謝致します。（行方）

歩行距離 11 キロ 高低差 930 メートル

白石車庫～白石峠～剣が峰～堂平山間の標識は、かなり少ない

堂平山～笠山峠～笠山間は標識も多い





ルート(出典:国土地理院 Web 地図)

参加者の感想文

5月27日は梅雨入り前の好天に恵まれ、新緑の山の空気を思いっきり深呼吸してきました、堂平山周回コースは10キロ程の距離ですが低山にもかかわらず登りごたえのある山、尾根道、ブナ林、山ツツジなどを見ながら次々に変わる風景に飽きさせないコースでした。昼ご飯を食べた堂平山山頂は標高876mですが確かに天文台が設置されるだけのことはあると思わせる素晴らしい展望でした。途中少し道迷いもしましたが、皆で色々な意見を出して解決したのも楽しい思い出です。CL行方さん、SL小玉さん、企画から当日の山行、終了後の報告書など色々お世話になります。楽しい山行を有難うございました。

宮崎則子

朝4:50に起床し気になる天気をすぐにチェック。今月は毎週末に天気が崩れ、この日もどうなるか心配でしたが晴れの予報でテンション。集合の小川町駅は4月の「ふれあい登山」で訪れた駅です。ここから更にバスで移動の予定でしたが、今回は参加者が5人ということでSL小玉さんの車に同乗させていただけることになりラッキーでした。堂平山の山頂からはほぼ360度の展望が楽しめるという情報に期待わくわくで山行スタート。歩き始めて間もなく、生い茂る草に隠れていた登山口の標識に気付かず素通りしてしまい早くも道迷い。その後も道中に標識がほとんど無く(ちょっと不親切かも)何度か迷いましたが、YAMAP片手に心強いメンバーと一緒にだったので不安はあまりありませんでした。登り坂ではかなり汗だくになりましたが、緑鮮やかな木々に囲まれ心地よい風に癒やされながら進みました。全体的にアップダウンの激しい登山道で、これで「レベル☆」...?と皆さん少し疑問。そして山頂では素晴らしい景色を眺めながらのランチタイム。至福の時を過ごしました。堂平山には天文台があることから星の観測に適していて夜景も楽しめるようです。今回の堂平山・笠山をたどる縦走コースはトレーニングにもなり、メンバーの方々と和気あいあいとした雰囲気、とにかく「楽しかったね～」の一言に尽きる山行でした。そして無事に皆まで下山できたことが何よりでした。この度ご尽力いただいたCL行方様、SL小玉様 大変お世話になりました。立原様、宮崎様 一緒にできて楽しかったです。またよろしくお願いたします。

吉田湖恵

お天気にも恵まれて、また小玉さんが車を提供されまして、5人で出発となりました。歩き始めたところから道に迷い登山口で迷いました。少し引き返し順調に歩け、ほっとしました。また途中で道に迷い、標識がなく、行ったり来たりしましたが、堂平、笠山に無事登れました。道に迷ったりしましたが、楽しい山行でした。ありがとうございました。

立原由子

【山行報告】7月度 山研山行「焼岳」

山行委員 稲越洋一

2021年に引き続き(去年は焼岳の「噴火警戒レベル」アップに伴い中止)、新入会員の方、また「山研」未体験の方を主体に、山研泊を絡めた「焼岳」登山を実施しました。残念ながら、梅雨末期特有の降雨となりましたが、「百名山・焼岳」と上高地の魅力に、参加者のモチベーションも高かったように思いました(詳細は参加者の感想文を参照)。濃霧の頂上を経て、焼岳小屋で休憩後、岩場・梯子を慎重に下り、全員が事故もなく山研に到着。食事・入浴とともに、管理人・山田氏も加わっての歓談を楽しみました。山研泊後の翌日に計画していた「徳本峠」は、相変わらずの降雨が回復見込み無しにより上高地散策に変更、有名な「山のひだや」で「スイーツ」を堪能しました。降雨の中での登山は厳しさもありますが、参加者にとっては貴重な経験になったかと思えます。

(CL: 稲越)

- 行程 令和5年7月8日(土)～9日(日)
- 場所 北アルプス 焼岳 グレード☆☆
- 宿泊場所 日本山岳会 上高地山岳研究所
- 集合場所 新中の湯登山口
- 集合時間 午前7時00分

【行程】

(一日目) 歩行距離：約11.8km 累積標高差：約1,180m

● 7月8日(土) (休憩を含む)

登り：新中の湯ルート 新中の湯登山口発(7:00)～広場～焼岳北峰(10:45)

下り：上高地ルート 焼岳北峰～中尾峠～焼岳小屋(12:10)～上高地(山研)(15:40)



ルート (出典：国土地理院 Web 地図)

(二日目)

● 7月9日(日)

降雨が治まらないため、予定の「徳本峠」山行を中止し、明神「山のひだや」を目指したスイーツ散策に変更(好評でした)。山研で解散。





新中の湯登山口



広場を目指す



濃霧の焼岳山頂



中尾峠



焼岳小屋



無事に下山(上高地ルート登山口)

【参加者の感想】(順不同)

【磯崎佳奈】朝からの土砂降り、最初は修行の気分でした。が、途中で限界点を突破したらしく、その後はとても楽しく歩くことができました。ガレ場も鎖も梯子もとっても楽しかったです！好天の時にノーマルな状態でリトライしようと思います。

【吉田湖恵】焼岳の山行は中の湯温泉旅館に前泊でスタート。とても楽しみにしていたのですが当日の天気がどしゃ降りの予報にテンション^〇。そして予報適中で更に^〇。あのお天気で山行を決行される山岳会のハードルの高さを改めて実感しました。道中滑らないように！と私にとってハラハラドキドキの連続でしたが全員無事に下山できたことが何よりでした。翌日の徳本峠は中止になり正直ホッとしました(ごめんなさい)。上高地の散策は癒やされましたね。今回あいにくのお天気だったので焼岳はぜひリベンジしたいと思います。メンバーの皆さん、ありがとうございました。

【吉田由美】前日の青空から一変天気予報通り、朝から雨の山行となりました。雨の中を2444mの山に登れるだろうか？稜線の風は強くないだろうか？上高地までの長い距離を歩けるだろうか？不安だらけの弱気の虫が騒ぎだしました。それでも、雨の中濡れるのは当たり前、何より皆さんが明るくて私の気持ちも軽くなっていきました。下りの急坂、1枚岩の鎖場、長いハシゴ、リーダーのアドバイスを聞きながら無事にクリア。山頂は真っ白で、強く吹く風の為長くは居られませんでした。上高地に着いた時歩ききることができた達成感で充実した気持ちになりました。雨の中を歩く時の雨対策、貴重な体験、沢山勉強になりました。山行委員会の皆さま、ご一緒できた皆さま、山研の山田さん、大変お世話になりました。有り難うございました。

【宮崎則子】7/7。中の湯温泉で前泊、ゆっくり温泉と美味しい料理を満喫していると雨がザーザー降りだして来ました。まさか「こんな雨の中、登山なんて無理」これが前泊組の率直な意見でした。翌7/8。朝から雨足は収まらず、集合場所へ。皆さんやる気満々で待ってます。出発！黙々と前の人の足跡を見ながら登ります。展望はゼロ、植物愛好家は雨の中でもこまめに写真を撮ってる姿に感心です。焼岳頂上標識を撮影するのが精いっぱい直ぐに下山。「山研」到着、安堵。ゴアテックスの効果も空しく下着までグッショリ濡れました。乾燥室とお風呂が有難かった！7/9。今日も雨。徳本峠山行は中止。代わりに上高地ケーキ屋さん巡り。good choice! その時々には辛い事もありましたが、無事に帰って今このような感想文を書いていると、色々な事が学べたので、雨中登山もいい経験だったなあと思っています。有難うございました。

【行方真由美】去年の焼岳山行が中止になって念願の山行でした。残念ながら大雨、雨の中の登山は久しぶりでザックの雨対策が足りなかったのが今回の反省点です。雨で眺望は無かったのですがハシゴや岩場の通り方など稲越さんからのアドバイスや山研での参加メンバーとの交流、翌日の上高地の散策など思い出の多い忘れられない楽しい山行になりました。参加メンバーの皆様ありがとうございました。

【高倉洋一】私にとっては下見も含め上高地に行けただけでも嬉しく、焼岳山頂付近のかつての溶岩や硫黄の臭いも印象的でした。7月であっても雨の中全身が濡れて風による寒さを感じ、いろいろな気づきを得た山行でもありました。

【松尾渡】7月8日の朝6時半に「中の湯温泉旅館」を出発した時から、一日中強弱のある雨が降り続く焼岳山行であった。焼岳の全貌や周りの山々は雲で覆い隠され、緑あふれる山々や木々は想像するしかない。頂上の焼岳指標を見ても満足感は少ない。逆に、1年前に甲斐駒を登った時に頂上で風

速 20m の風雨に体を横に流され、低体温症手前になりかけた記憶が蘇る。雨の焼岳は靴の中まで濡れたが、体が冷えることはなく、上高地まで黙々と無事下山できた。雨の登山も「貴重な体験として役に立ちますよ」と話を聞くが、やはり好天の焼岳に憧れる。また、次の機会に山行したい。

【町田美春】前日までの天気は夏日の猛暑にも関わらず、楽しみにしていた焼岳山行当日は朝から雨でテンションが下がってしまいました。リーダーより前もって、雨天に備えた準備をするようにと連絡があり、万全の準備をした筈でしたが濡れました。登山道は沢状態、あちらこちらぬかるみ、木の根や石は滑り慎重に歩を進め転ばないよう必死でした。眺望はほぼ望めず残念でしたが、様々な種類の花々が私達の目を楽しませてくれました。ひとつずつ花の名前を教わりながら歩きましたが、ひとつ覚えればひとつ忘れ自分の記憶の悪さを実感しつつ楽しいひとときでもありました。山研は既に体験済みではありましたが、管理人の山田さんから色々なお話も聞け楽しく過ごすことができました。降雨の焼岳山行でしたが、なかなかできない経験であり、雨対策の見直しや降雨山行の注意点等良い勉強になりました。天候の良い時にリベンジし、その時はまた山研を利用したいと思います。

【倉崎知恵】防水対策し、覚悟を決めて挑めたことと大勢の参加者と一緒に心強く、思っていた以上に楽しむことが出来ました。また、参加者の皆さんと沢山お喋り出来、上高地でまったり過ごせたのも良かったです。ありがとうございました。

【塚越和子】前日の青空から一変しての雨の中の焼岳でしたが、頂上を踏み、黄色に変色した岩壁を、仰ぎ見た時、また晴天の日に登り直したいと、思いました。今回の経験で、雨対策、完璧です。

【土田利恵子】焼岳お疲れ様でした。久しぶりの雨の山行でした。それも靴の中はビショビショ、レインを脱いでウェアも汗？雨だかわからないほどの濡れでした。山頂は素晴らしい眺望ではなく強風と痛い雨で早々の下山でした。体力、技術力不足もあり皆さんに迷惑を掛けない様に何とか付いて行こうと頑張り下山後五日間筋肉痛になりました。とても思い出に残る山行になりました。ありがとうございました。

【萩原みか】雨天の山行は覚悟して、装備も防水対策をして臨んだ焼岳であったが、想像以上の本降りや靴の中までびしょ濡れは、私は初めてだった。悪天候で景色を見られなかった分、真剣味を相当増して、沢状態の登山道、濡れた梯子、狭い岩場の通過に神経を尖らせた。体調にも頻繁に配慮するタイミングを計る事が出来たと思う。CLからの事前の指示があった上だが、体得できるのはやっぱり実地の体験だった。敷居が高いと感じていた山研利用も叶い、このような機会を作っていただいた事に感謝します。

【平本真二郎】今回の山行は先週より雨の予報となっていましたので、雨を覚悟で参加しました。しかし、スタートから山研到着まで雨でしたのでスキルは上がりましたが、山域が見えず少し残念ではあります。只、支部の方々と山小屋風の山研に宿泊し、楽しい話が出来たので、今後も支部山行に積極的に参加して行きたいと思っています。

【平本美恵子】予報雨量1ミリを信じて登り始め、徐々に雨がやんで霧が無くなり焼岳がドーンと姿を現すと願いながら進みました。が、山頂では更に強風で雹かと思うくらいの雨で顔が痛かったです。いつでも、「焼岳よりは大丈夫」といえるような悪天候スキルが上がる貴重な山行でした。山研では、ワイワイと楽しい時間を過ごせて幸せでした。

トピックス 【個人山行】 『劔岳』

山行委員長 轟 涼

今年の夏は、奇しくも新入会員(「埼玉やま塾」卒業生など3年以内の方)の方々が5名、「劔岳」に登頂されました。身近な会員のレポートは、今後「劔岳」を目指す方(特に新入会員)の参考となると思いますので、個人山行ではありますがトピックスとして掲載いたします。登頂ルートは「別山尾根(宮田会員・2年目)」「早月尾根(平本会員・やま塾5期)」の報告です。その他、朝井会員(やま塾3期)が別山尾根ルート、塚越会員(やま塾3期)が早月尾根ルートで登頂されました。

『劔岳(別山尾根ルート)』 準会員 宮田しのぶ

参加者：宮田しのぶ、轟 涼

劔岳 8/8～8/10 2泊3日 劔山荘泊

1日目

お昼前より室堂入り、雪渓3箇所。劔山荘へ15時25分到着。

2日目

前日の夕方に降った雨を気にして少し遅めの4時半スタート。朝食のお弁当を食堂で食べた事により、スープあり、ゴミも捨てられ、結果良し。雨の心配なく、日の出を見ながら、一服劔、前劔と進む。場所を問わず、落石に遭わない様によく観察。

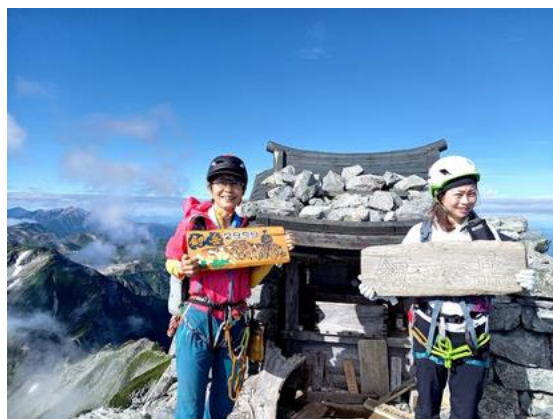


カニのタテバイ。写真で見ると、ほぼ垂直の壁を登っている様に思えたが、実際に登ってみると、杭で足場がしっかりと作られており、鎖もある為に、困ることなく怖くもなく、思いのほか登り易かった。慎重にゆっくりと進める中、それでもあつという間の終了にて、正直、もう終わったの?という感じでした。周囲の登山者もタテバイってあれだったの?という方がいた。

8時10分 劔岳登頂。(右側が私)

8時30分 下山開始

カニのヨコバイ。1歩目の足を置く所にペンキが塗られており(かなりの広範囲)、右足から置けば横へスムーズに。カニのヨコバイも足場はしっかりしており、鎖もあるので、ゆっくりと進めば恐怖や危険性を感じることはなく。もちろん、油断せず、鎖も梯子も確実な3点支持。



山頂を踏んで気持ちもゆるみがちの為、ザレ場などは集中。距離を適度にとって確実な石を踏む。リーダー轟さんの的確な指示があり、安全かつ楽しみながら問題なく下山。

11時劔山荘到着。

3日目 立山三山縦走予定

6時半スタート。

別山8時 真砂岳9時。

ここで、飛ばされるぐらいの突風、前傾姿勢でも難しい時は、座って止まるを繰り返し、急遽、真砂岳にて撤退。

11時30分 室堂到着。

今回、安全かつ楽しく下山まで出来たのは、リーダー轟さんがトレーニングの機会を複数回設けていただき、当日に的確な指示をしていただいたおかげでした。



いたずらに過度な恐怖心は与えない配慮をいただき、私は冷静かつリラックスして剣岳に挑戦出来ました。足場はあるので慎重になれば大丈夫。手がかり、足がかりになる岩の突起や割れ目がしっかりあり、3点支持に集中しました。

◆所感

ちなみに、私は決して身体が強くありません。その為、日々の生活にて意識して取り入れた事がありました。大した事無く恥ずかしいですが、ご指示のもと記載させていただきます。

持久力、筋力、体幹トレーニング自宅で動画活用して実施する他、

- ・階段登りはダッシュ。出来れば1段抜かし。
- ・階段下りる時は後ろ向きで1段～2段抜かす。足場の位置を毎回変えて、身体をひねり目で確認、つま先で確実に着地。
- ・鉄棒で懸垂。
- ・雲梯の足置き場(ポール)で踏み台昇降。←これは杭に足裏をしっかり乗せる練習になったと思います。
- ・デスクの上の物を瞬時に確実に掴んで二の腕からしっかりと体に引く(注コップでやるとかかります)。
- ・通勤時は荷物に1.5Lの水を加え、電車40分つま先立ち。
- ・4時半起床、睡眠4時間で日々過ごす。
- ・橋など高い所から下をしっかりと見る。

これが私の精一杯でした。力となったかは分かりませんが、自分の弱点を知る事が出来ました。

最後になりますが、一緒に練習、応援して下さいました方、ありがとうございました。

そして、リーダー轟さま。

書面での山行履歴も大事にする一方で、実際の私との山行、トレーニングにてご自身のみならず、周囲の意見を取り入れて、先入観や思い込みを排除し、総合的判断にて私にチャンスを与えてくださりました。

この感謝の気持ちは言葉では言い尽くせません。轟リーダーに敬意を表します。

長くなりましたが、私の剣岳初登頂の感想とさせていただきます。

『劔岳(早月尾根ルート)』 会員 平本美恵子

参加者：平本真二郎(CL)、平本美恵子、稲越洋一

劔岳 8/18～8/19 1泊2日 早月小屋泊

今回、2つの一般ルートのうち早月尾根ルートにて劔岳に行ってきました。

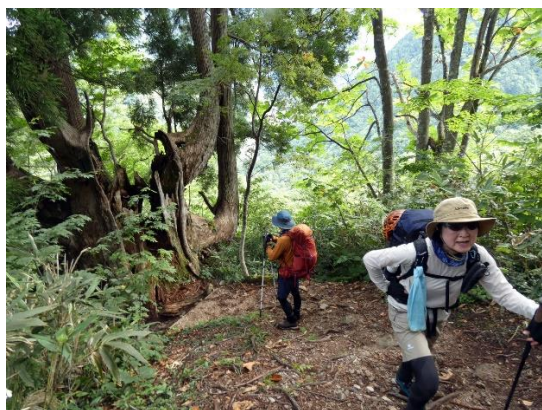
早月尾根ルートは、馬場島登山口（746m）→劔岳（2999m）まで単純に計算すると標高差2253mですが、実際にヤママップの計測ログによると、登山口→早月小屋まで登り標高差1495m、小屋→劔岳山頂まで登り標高差862mで、距離は8.3kmなのでかなり急登の連続でした。

早月尾根の情報を事前に調べるとかなりハードな行程になると思われるので、車中泊を考えていましたが、「馬場島荘」にて美味しい夕食としっかりと足を延ばして寝ることで体力温存をはかろうと、前泊して早朝に出発することにしました。

【8月18日】

6：30 馬場島登山口スタート

天気は晴れ、周りの山もスッキリと見えて軽やかに出発。登山口の「試練と憧れ」の有名な碑を過ぎるといきなりの急登が始まります。しばらく急登を登り緩やかになった先に1000mのプレートがあります。早月尾根は標高200mごとにプレートが設置されているために、目標にして進めるので励みになります。ただ、実際のGPSの標高とは若干ズレていますので、本当はまだその標高まで登っていないのに、ぬか喜びになってしまうことが度々でした。樹林帯の中を、木の根や岩を乗り越えて行く長い急登と、ほんの少しの緩やかな登りを繰り返しながら登ります。



9：00 ごろから雲が沸き周りの山も見えなくなりパラっと一瞬雨が降りました。その後はガスの中ひたすら登りました。途中、屋久杉を思わせるような大きな杉の木や、小さな池塘のサンショウウオに癒されながら登り、早月小屋に12：10に到着しました。

休憩含めて、5時間40分の登りで、天気は曇りでも猛暑のこの時期はかなりの汗がでます。途中に水場はないので、水1ℓ、ポカリスエット500ml、アクアソリタ（経口補水液）500mlを持ちましたが、ほぼ、飲みきりました(水分補給は本気で実行する)。小屋では水2ℓペットボトルを1300円で購入できます。

【8月19日】

3:00 起床 前日に朝食を弁当にしてもらって部屋で朝食。

小屋に不要な荷物をデポし、軽くしたザックで出発準備を整えます。サブザックを考えましたが水 1ℓ ポカリスエット 500ml、行動食（ゼリー、パンなど）、ストック、ヘッドランプ、レインウェア、エマージェンシーなどを入れると安定が悪く背負いにくいので、行動時間を考えると中身をデポする方が快適に行動できます。（小屋泊用に 30L ザックを使用）

4:30 早月小屋スタート（2200m）

2400mまでは樹林帯の中を登ります。森林限界～ハイマツ帯になり開けた所でヘッドランプとストックをザックに収容し、ヘルメットを装着してこの後の岩稜帯に備えました。

ザレ場、岩場、崩落した所などを三点支持で 2600m、2800m と高度を上げて行きます。

2800mを過ぎると岩のみになり、鎖の連続となります。カニのハサミは問題なく通過しましたが、それ以外の鎖や鎖の付いていない岩稜の急登の方が緊張を強いられました。慎重に進み、最後の長～い鎖を登り切り山頂に到着しました。



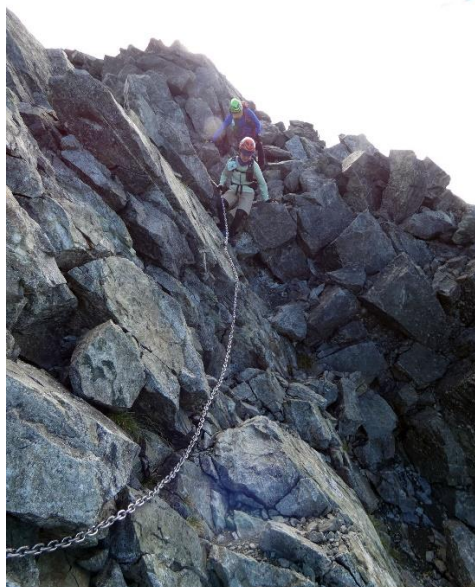
8:00 劔岳山頂

別山尾根からの登山者と合流し賑やかな山頂。天気も良く、360 度の大パノラマの素晴らしい景色で、立山、北アルプス、中央アルプス、遠く富士山まで見ることができ、最高でした。山頂で景色を楽しみ下山しました。（右端が私）

8:30 下山開始

今、登ってきた鎖場、岩場を降りるのかと思うと…正直、降りられるかな？降りたくな～い！と頭をよぎってしまいました。鎖のあるところは、鎖さえ離さなければ落ちないので大丈夫ですが、問題は鎖のないザレ場、岩場です。バックで三点支持を守りながら時にはお尻でズリズリ…と、カッコよくポンポンポンとは無理でした。下山は登る以上に慎重に、緊張をゆるめずに下りました。





11:20 早月小屋到着

ご褒美コーラを小屋で購入しエネルギー補給。しばらく休憩して下山を開始しました。

12:15 早月小屋から下山開始

本日は山頂から標高差 2357mを一気に降ります。早月小屋からは残り 1495m。木の根や岩が重なる大きな段差の下りとなるので、ストックを使いスリップしないように、また慎重に下りました。

16:10 馬場島登山口 到着

無事に怪我なく劔岳山行を終えることができました。

膝の痛み、足の痛みは当然ありますが、行ってこられたという喜びがフツフツと…疲れは何処へやらです。

今回、稲越さんが同行してくださり、ペース配分や補給、行動時間、岩場の足の置き方などの的確なアドバイスをいただきました。憧れだった劔岳を試練の山ではなく、楽しい山行にさせていただいたことに感謝です。ありがとうございました。

劔岳早月尾根コースをチャレンジして、感じたことは登りだけでなく下りも含めた「登山の足」を作っておくことが大切だと感じました。2日目の下りはかなりハードでしたので足の筋肉痛が凄かったです。また、高度感、岩場、鎖場に慣れておかないと厳しいと思いました。

私の経験値として、高度感／鎖場は八ヶ岳の赤岳・地藏尾根、谷川岳・西黒尾根、乾徳山の頂上直下の鎖場が、又、岩場／ザレ場は八ヶ岳の蓼科山や編笠山の頂上直下の山行が役にたったと、今回の早月尾根で感じました。

【劔岳からの眺望 2023.8.19】 北東～南(パノラマ)



※上記の画像データ、ご希望の方にお分けいたします。「お名前」「会員番号」を明記の上、以下のアドレスまで、ご連絡ください。(広報委員会) ※アドレスお間違え無きよう。

アドレス : jac_saitama2021@yahoo.co.jp

【山行報告】8月度月例「針ノ木岳・蓮華岳」

山行委員 朝井紀久子

- *日 程：2023年8月26日(土)～27日(日) 1泊2日
- *場 所：針ノ木岳 2,820m、蓮華岳 2,799m (北アルプス) グレード☆☆
- *参加者：高倉洋一、萩原みか、塚越和子、行方真由美、倉崎知恵、那須朋美、
稲越洋一(SL)、朝井紀久子(CL) 計8名
- *天 候：両日、晴れ時々曇り、風なし、暑すぎず。山の上ほど霧がちながらも雲の動きにて眺望は所々で望めた。1日目朝は快晴、徐々に雲が湧き、蓮華岳登山時は霧がち。小屋泊の夜間に激しい雷雨。翌朝濃霧、針ノ木岳登山時は霧の晴れ間あり。
- *行 程：集合場所へはそれぞれで移動 (①夜行バス ②麓前泊+タクシー ③自転車)
- 8/26(土) 5:30 扇沢駅集合 5:50 針ノ木岳登山口→7:10 大沢小屋 7:20→(針ノ木雪渓横・夏道、渡渉・岩場あり)→10:55 針ノ木峠・針ノ木小屋(チェックイン・デポ) 11:15→ 13:05 蓮華岳 13:25 →14:10 針ノ木小屋(泊)
- 8/27(日) (朝食・デポ)針ノ木小屋 5:30 →6:30 針ノ木岳 7:15 →8:00 針ノ木小屋 (荷物準備・トイレ) 8:30 →(針ノ木雪渓横・夏道、渡渉・岩場あり) →10:50 大沢小屋 11:00 →12:00 針ノ木岳登山口・扇沢駅(下山)。温泉後解散。
(1日目8時間20分、2日目6時間30分/歩行距離15.4Km/標高差1,397m)

数日前からの天候不安定さで、催行自体を直前まで検討。稲越SLの詳細な予報分析と共に、皆さんの意識も高まる雰囲気を感じました。当日朝は快晴で安堵の登山開始。7月下見時の雪渓登りとは比べ、8月は雪渓も消滅し、鎖を伴う険しい岩場の夏道となりました。しかし参加者の皆さん、慎重に問題なく通過され、ほっとしました。沢の水量も少なく渡渉も危険なし。前上方に針ノ木岳へと続く峡谷、後方に爺ヶ岳が美しくそびえます。そして足元には晩夏の花が点在し、詳しい参加者が名を語られます。



正面奥 針ノ木岳

途中から山岳救助隊員(遭難防止常駐隊)の方が偶然同行され、楽しいお話も聞けました。そうした景観や会話と、思いのほか楽だった気温に助けられ、標高差ある急登を何とか登り、針ノ木峠・小屋に早めに到着できました。



小屋にデポ後、体調を自己申告頂き、登山可能な7名(1名は待機)で蓮華岳へ。麓に比べ霧がかかっている中ですが、雲の流れで、すーっと眺望も開ける時もあり、美しい稜線と、明日登る針ノ木岳も垣間見えました。群落が有名なコマクサは、最盛期は過ぎたものの、僅かにその姿を見せてくれました。

蓮華岳への稜線

翌朝の晴れ予報にて予め早出を計画。夜の雷雨は思いのほか激しく、早朝の一瞬は、小屋から美しい穂高連峰や槍ヶ岳などが見え感激するも、間もなく周囲一面濃霧に。ここで最新の天気予報を得た稲越SLが、針ノ木岳への出発を30分遅らせる事を提案。これが最良に功を奏し、登山開始時こそ濃霧の中ながら、徐々に視界が開け、登頂時に抜群のタイミングで、**眼下に黒部湖、その先に立山三山と劔岳など連なる峰々の眺望を目にすることが出来ました。**先に登った方々が視界なく残念に下山して行った後で訪れているこの僅かな時間は、奇跡的とも思え、自然との巡り合わせと、参加者の日頃の行い?(笑)に感謝しました。



後立山連峰や南アルプス方面まで、360°のパノラマを堪能後、下山開始。針ノ木岳山頂から爺ヶ岳まで続く、美しい「針ノ木岳サーキット」と呼ばれる稜線や、霧がうすれ徐々に姿を見せる朝焼けの針ノ木の峡谷。その眺望をしみじみ味わいながら、下山しました。標高差とロングコースにて疲労もあったかと思いますが、適宜休憩を入れ足並みが揃い、山行することができました。下山後、車で15分の所にある温泉(薬師の湯)も有難かったです。

～参加者の感想～

【行方真由美】

360度の素晴らしい景色が見られた針ノ木岳の山頂でした。

山行の直前まで、そして針ノ木小屋から針ノ木岳山頂を目指す直前の早朝まで天気を読んで行程を考えてくださった稲越さん、朝井さんおかげで、山頂で奇跡的にガスが消えて立山、北アルプスの山並みが見えたのは、とても感動しました。ありがとうございました。

高山植物もまだまだ咲いてました。メンバーとの小屋泊、山話などの楽しい時間も沢山ありました。ご参加された皆様、大変お世話になりました。

【塚越和子】

針ノ木岳は、鹿島槍の歩きやすい道とは、違い、変化に富む、存在感のある山でした。渡渉あり、ザレ場、ガレ場、岩場、鎖場、その上、稲越さんの天気のおかげで、立山、劔、黒部ダムの展望まで、味わえました。大満足の山行でした。😊

【高倉洋一】

天候に恵まれた針ノ木岳山行は、適度な岩歩きと高度感のある山頂滞在を楽しめました。今回は荷物の軽量化も私の一つの課題として工夫し、概ねいい感じの山行ができたと思います。CL 朝井さん、SL 稲越さん、周到なご準備ありがとうございました。

【那須朋美】

天候にも恵まれ、遭難対策協議会の隊長さんの話も聞けて、和気あいあいと楽しく登ることが出来ました。

とっても有意義な山行でした。

27日朝の景色です。



【萩原みか】

針ノ木雪渓からコマクサ群落で名高い蓮華岳に登り、針ノ木小屋泊。翌日針ノ木岳山頂から360°展望を望み黒部湖を見下ろす。この盛り沢山な企画の魅力が全部叶った。雪渓は今年は雪解けが早く、梅鉢草がたくさん咲く夏道ルートになったがそれも良し。針ノ木岳山頂から立山連峰と劔岳の眺めは素晴らしく感動だった。

事前の天気予報が良くない中の催行判断や連絡、当日の天気の情報集めから適期な山行の時間の判断、それから鎖場や急登の砂礫地の通行の注意点などなど技術的にも実地訓練になり、数多く学ばせていただきました。ありがとうございました。

【倉崎知恵】

直前まで雨の心配があり、一度は諦めた今回の山行ですが、まずまずのお天気となり、特に針ノ木岳山頂から見る景色が素晴らしくとても良かったです。また、夏の終わりで雪渓はありませんでしたが、色々な花が楽しめたのも良かったです。

針ノ木峠までの登りは苦しい時があり、寝不足とは言え体力のなさを痛感しました。そして何より、皆さんに色々教えて頂き、益々登山が好きになりました。お世話になりありがとうございました。また、丁寧な事前準備をしてくれた朝井さん、常に天気予報を確認しリードしてくれた稲越さんのお陰で最高の山行でした。本当にありがとうございました。

【稲越洋一(SL)】

針ノ木岳というと、北アルプスでは余り注目されない山域(渋い選択?)なのではないでしょうか、登山口の扇沢からは、トロリーバスに向かう人(立山)、柏原新道(爺ヶ岳方面)に向かう人は多かったです。針ノ木登山口は静かなものでした。8月は時期的に名の知れた雪渓は消滅し、花の時期も過ぎていましたが、目的のひとつである頂上からの眺望は僅かな時間ですが、劔岳始め、立山連峰、黒部湖など見る事ができました。参加者も長い急登や岩場の夏道を乗り越えて初登頂を楽しめた様です。針ノ木小屋のスタッフにネパールからの方々もおり、先の下見時の事を覚えていた様で小屋の方々との交流も楽しみのひとつですね。足のそろった参加者のみなさん、行程も遅れなく、又事故もなく、大変お疲れさまでした。

【朝井紀久子(CL)】

日本山岳会・埼玉支部に入会した年、初めての宿泊登山が「爺ヶ岳・鹿島槍ヶ岳」で、その素晴らしさに感動しました。翌年に隣の「唐松岳・五竜岳」にSL参加で学ばせて頂き、初めて“後立山”という山域を意識できるようになりました。じっとその山域地図を見ていたので視界に入っていた「針ノ木岳」とは？ この素朴な思いで、登山先輩の稲越さんに雑談で話した所、興味を持って下

さり、支部山行のご協力を得られ実現しました。少しずつその山域を知っていくという山行の広げられた方もとても楽しいものと感じました。今回の山行では、稲越さんを始め、参加者の皆さんにも、朗らかな交流や、調整時の各種相談に迅速なレスポンスと快いご協力、さりげないお気遣い等、その人ごとのお人柄にも深く感じ入るものがありました。楽しさと同時に、深く感謝しています(*^*)。ありがとうございます。

【山行報告】秋山山行 「飯豊山」

山行委員 町田美春

*日程：2023年9月16日(土)～17日(日) 1泊2日

*場所：飯豊山 2,105m グレード☆☆☆

*参加者：CL朝井、SL町田、稲越、平本(真)、平本(美) 計5名

*行程：登山口(御沢野営場)へはそれぞれで移動(車中前泊)

9/16(土) 5:36 御沢登山口→8:21 横峰→水場(水量確認)→10:12 剣ヶ峰→11:00 三国小屋
→13:00 切合小屋到着(泊)

9/17(日) 5:05 切合小屋出発(荷物は小屋にデポ)→6:55 本山小屋→7:13 飯豊山山頂
→8:00 本山小屋→9:33 切合小屋(荷物をまとめ)10:05→11:46 三国小屋→13:57 横峰
→16:11 御沢登山口→16:20 御沢野営場駐車場

*歩行時間：歩行時間：1日目約7時間30分(休憩込) / 2日目約11時間強(休憩込)

*装備：避難小屋泊装備 食料(1日目の朝昼・2日目の昼)行動食、非常食、飲料水 2.5L以上、
プラティパス、シュラフ、マット、ヘッドランプ、雨具、ゲイター、着替え、
ザック内の防水袋等、携帯電話、モバイルバッテリー

*行程概要：

9月の連休に秋山山行で飯豊山を計画していましたが、今年は例年になく水不足ということで、小屋の管理人さんから再検討をとの連絡が来ました。当初の予定では、切合小屋と三国小屋の避難小屋の2泊でかなりゆとりをもった日程で計画を立てていました。

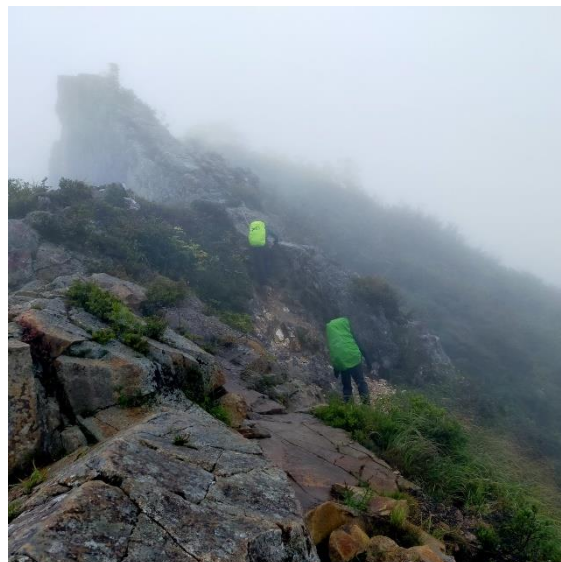
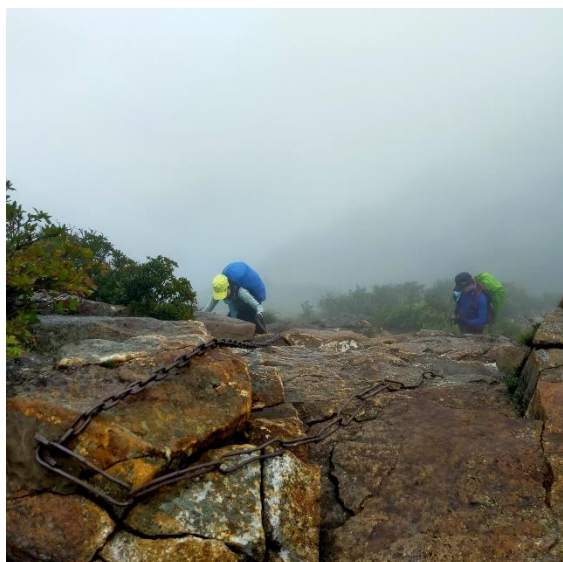
水不足という大きな課題を課せられ、参加者で何度かオンラインで討議を重ねました。ルート上での水場状況や小屋での飲料販売の有無を確認し、その結果、行きに2.5L以上の水を持ち切合小屋に1泊で食事付きにし、ルート上の水場状況を確認しつつ小屋近くの水場で翌日分の水を確保することで山行実施を決めました。また、週間天気予報とのにらみ合いで、当日雨天ならば飯豊山山行は中止とすることとし、代替山行の話題も取り上げられました。

天気予報で当日は雨の可能性もありましたが、大雨とかではなさそうということで、参加者はそれぞれ登山口駐車場に向かい車中泊をしました。夜半過ぎにかなりの雨が降りましたが、朝にはほぼ止み気持ちよくスタートができました。



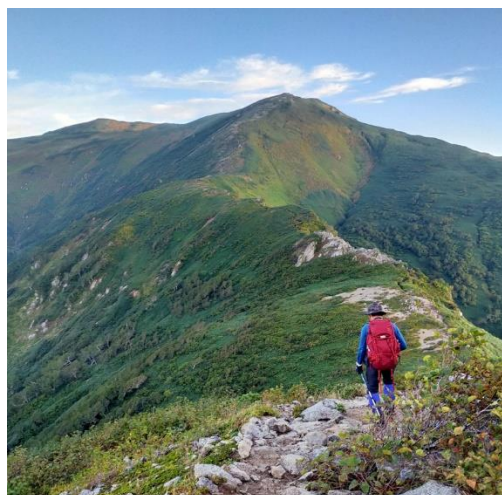
横峰を過ぎ最初の水場は程よく水が出ていることを確認、水を汲む長い列ができていました。天候は晴れ間が見えたり急に霧で周囲が見えなくなったりととても不安定だったため、早めに切合小

屋に到着できるよう行動しました。残念ながら岩場手前辺りで雨が降り出し、滑らないように慎重に足を進めました。剣ヶ峰の岩場は、岩の形状が平らで滑り易くとても怖かったです。



三国小屋でトイレタイムを取りほぼ予定通りに切合小屋に到着しました。雨は止み小屋から 20 分ほど下った先に沢があり、そこに水汲みに行きました。見た目はきれいですが汲むと黄色味を帯びた水で浄水器を持参してくれたことに感謝しながら、それぞれが水を確保し翌日の登頂に備えました。

翌日は晴れましたが天気は崩れる予報だったため、午前中勝負で荷物を小屋にデポし朝早く山頂を目指しました。



飯豊山の素晴らしい稜線を眺めながらピークを踏み、ガスが上がってくる前に写真撮影を済ませ、早々に本山小屋に戻りました。リサーチ済みの飲料を購入し早めに切合小屋に戻り荷物をまとめ 10 時過ぎには出発しました。

剣ヶ峰の岩場で雨に降られるととても危険であり、雨が降り出す前に岩場を通過したいと早め早めの行動で下山しました。幸い雨に降られることなく岩場を通過できホッとしました。

前日水量を確認しただけで通り過ぎた水場で、冷たくて美味しい水で喉を潤しゴールを目指しました。登山口にほぼ予定通りに着き、駐車場で荷物を積み乗車すると同時にものすごい勢いで雷雨がありましたが、濡れることなく近くの温泉で汗を流すことができました。

***参加者の感想：**

【朝井紀久子】思った以上に、すごい岩道が最高に楽しかったです！ 去年、個人山行で飯豊山に初登頂した際は弥平四郎ルートで、三国小屋までは普通の山道でした。一方、岩場のある川入ルートはとても気になっていたもので、今回、早々に試みる機会を得て有難かったです。心配だったのは雨ですが、見事に登りで雨（笑）。しかしながら、参加者の皆さん、慎重に安全に通過され、本当に良かったです。更に皆さんの運で、翌日の登頂では見事に晴れて、開けた大空のもと稜線を歩け感無量でした。今回は、山域の低雨量による水場枯渇が、大きなテーマとなりました。頭を抱える中で、参加者の皆さんの協力は大きかったです。事前リサーチの積極的な協力、現地での水ろ過道具提供、詳細な天候分析、そして楽しい会話、足並みを揃える努力や互いの優しさ。貴重な体験と山友を得た気持ちです。有難うございます！

【稲越洋一】東北の名山「飯豊山」と言えばアプローチの長い山というイメージがありますが、山行計画見て山小屋泊(食事有り)+避難小屋泊という2泊3日の行程を考慮し参加を決めました。ところが飯豊山の小屋は水提供無し/水場が枯れている、という情報が入り、CL/SLの事前情報確認や計画変更(1泊2日)等、大変ご苦勞を掛けた事に感謝いたします。初日の御沢登山口から切合小屋までは雨模様で、特に三国小屋手前の剣ヶ峰(岩場)では斜めになった一枚岩が濡れて滑りやすく緊張を強いられました(滑ったら滑落)。翌日は奇跡的な晴れの間に山頂を踏み、雲や霧が徐々に覆う中、懸念していた剣ヶ峰も岩が乾いていたため難なく通過し無事下山できました。全行程を通して、参加者とのコミュニケーションや協調ある行動が安全登山に繋がる事を実感した、記憶に残る山行となりました。

【平本真二郎】二人 夫婦 だけでは到底登れないと思っていた飯豊山でしたが、支部山行の案内があり直ぐに参加のお申込みを行いました。登山当日は、水不足が心配される中で 3.5Lの水を背負い宿泊する山小屋まで辿り着きました。翌日 5時スタートで頂上を目指す中で、周りの稜線を気持ち良く見ながら山頂へ到着しました。周りの飯豊連峰が全て見え最高の景色をメンバーと分かち合いました。今年最高の山行となり有難うございます。

【平本美恵子】大きくて深い飯豊山、個人で行くにはかなりハードルが高く無理かなと思っていました。今回のコースで登山口や小屋のこと岩場などを調べていくうちに行けるかもに変わりました。ただ予想外の、水場の枯渇で水の補給ができないという問題が occurred が、参加者全員で zoom にて直接やりとりが出来た事でとても安心して行くことができました。行程が長く危険な箇所もありましたが休憩ごとに笑いが絶えない最高に楽しい山行でした。ありがとうございました。

【町田美春】水不足という非常事態ではありましたが、いつかは行ってみたいと思っていた飯豊山に無事登頂できたことは、自信につながりました。初めての避難小屋泊を体験できたこと、水を含めた重い荷物を背負いロングコースを歩き続けたこと、岩場では雨に降られ滑りやすい状況だったこと等全てが良い経験となりました。不安定な天候ではありましたが、山頂では絶景を堪能できました。皆さんのお陰で楽しい山行となりました。ありがとうございました。

【山行報告】9月度月例「燕岳」＜大天井岳中止＞

山行委員 町田美春

*日 程：2023年9月30日（土）～10月1日（日）1泊2日

*場 所：燕岳 2,763m ＜大天井岳（2,922m）中止＞ グレード ☆☆☆→☆☆

*参加者：CL小玉、SL町田、古川、稲越、塚越、萩原、磯崎、平本(真)、平本(美) 計9名

*行 程：穂高駅に集合し、登山口(中房温泉)迄はバスで移動

9/30(土) 7:45 中房温泉登山口→8:25 第一ベンチ→9:00 第二ベンチ→9:44 第三ベンチ
→10:29 富士見ベンチ→11:10 合戦小屋→12:45 燕山荘(荷物デポ)13:20
→13:55 燕岳山頂→14:20 燕山荘(泊)

10/1(日) 5:35 燕山荘出発→6:24 合戦小屋→9:10 中房温泉登山口

*歩行時間：1日目約6時間30分（休憩込） 2日目約3時間30分（休憩込）

*装 備：小屋泊装備：食料(1日目の朝昼・2日目の昼)、行動食、非常食、着替え、替え靴下、
インナーシート、雨具、ヘッドランプ(予備電池)、レスキューシート、救急用品、飲料水、
ストック、携帯電話、モバイルバッテリー、防寒着 等

*行程概要：

今回、北アルプスの女王「燕岳」と常念山脈の最高峰「大天井岳」山行の予定でしたが、生憎の
荒天に見舞われ大天井岳への縦走は中止としました。

秋晴れの中、中房温泉登山口からスタートしました。登山道はアルプスでも指折りの急登ですが、
第一から第二、第三、そして富士見平とベンチが設置されています。休憩のタイミングもとりやす
く歩く目標にもなりよかったです。合戦尾根ルートは整備された登山道で、安心して歩くことがで
きるルートだと思いました。

参加者の方達は、ゴゼンタチバナやツルリンドウなど高山植物の観察にも余念がありません。花
や実を見つけては、これは何？と植物博士に聞き、皆で共有しながら高山植物を堪能していました。



第三ベンチ



ゴゼンタチバナ



ツルリンドウ

夏の合戦小屋はスイカが名物ですが、季節が変わりスイカがお汁粉になっていました。ここで
は、少し時間をとり各自お汁粉やおでん、うどん等を堪能しました。急登を登ったあとのご褒美
は最高です。

合戦小屋から上は丁度紅葉の見ごろで赤、黄、緑のコントラストが青空に映えとても美しか
たです。また、燕岳は花崗岩でできた独特の山体であり、花崗岩の白も合わさり、それはそれは
素晴らしい景色でした。



ハゼノキ



紅(黄)葉



燕岳遠望

ほぼ予定通りに燕山荘に到着し、チェックイン後荷物をデポし山頂へ向かいました。空は灰色の雲に覆われまもなく雨が降ってきそうな気配でしたが、山頂までの稜線はくっきりと見え、山頂とイルカ岩の前で記念撮影をしました。雲に覆われながらも槍ヶ岳やその山々に続く美しい稜線を見渡すことができ、満足感でいっぱいになりました。



燕岳山頂



イルカ岩にて

燕山荘に戻り夕食までの時間は、食堂で生ビールやケーキセットを堪能しました。食堂やカフェテラスは、多くの人で賑わっていました。夕食はハンバーグに魚、生野菜やデザートまで付いた豪華な食事で、ここが山の上であることを忘れてしまいそうになりました。食事中、オーナーが燕岳の自然を守る活動や安全登山について等、貴重なお話をして下さいました。今でこそ、燕岳のコマクサの群生は有名ですが、ここまでになるのに20年を要したと聞き、登山者一人一人の行いが非常に大切だと痛感させられました。そして、念願だったアルペンホルンの音色を聴くことができ感動しました。

お腹と心が満たされましたが、外は雨が降り出し時間と共に雨足が強くなってきました。翌日の行動予定をどうするか協議を重ね、状況によっては縦走を中止にすることになりました。夜半から朝方にかけて風雨が一層強まり、行程を継続することは危険と判断しリーダーから下山することが伝えられました。ヘッドランプを点けた状態での下山も厳しいことから明るくなるのを待って5時半過ぎに下山を開始しました。山小屋を出た瞬間、吹き飛ばされそうな程のすごい風が吹いていました。テント場から下山道に入ると風は遮られ雨も少し落ち着いてきました。足を滑らせないように一步一步着実に歩を進め、合戦小屋迄は1時間弱で到達し中房登山口には9時過ぎに到着しました。雨は上がり青空が出ていました。皆、怪我をすることなく無事に下山できました。

***参加者の感想：**

【小玉和孝】「燕岳、大天井岳」山行のリーダーとして、楽しく、事故もなく無事終了出来た事、参加の皆さんに感謝申し上げます。1日目は天候も良く、計画通りに中房温泉登山口～燕山荘～燕岳～燕山荘に行くことが出来ました。2日目は低気圧の影響で荒れた天気となり、ベテラン登山者の古川さん、稲越さんにアドバイスを頂き、出発直前に縦走は中止としてエスケープルートでの下山となりました。これからもベテラン、初心者で安全で楽しい登山を続けて行きたいと思います。

【古川史典】7月の下見に続き、本番で初めてお会いする方々と、初日登山日和2日目一時的な冬型気圧配置で風と足の指が海水浴の登山でした。でも皆さん健脚で楽しさ元気一杯紅葉には少し早めの楽しい登山ができました。又久しぶりに山岳部の後輩に会うこともできました。お世話になりました。

【稲越洋一】燕岳は人生で最初に登った山です。信州(自分の故郷)では、地域にもよりますが中学2年の登山実習として登る山(勿論、日帰り)であり、特徴ある頂上の風景は今でも鮮明に覚えています。山登りを本格的に始めた後も登っていますが日帰りであり、今回、燕山荘泊まりに加えて大天井岳への縦走も魅力があり参加しました。残念ながら縦走は気圧の谷通過による荒天のため断念しましたが、適度な登りの疲労感、燕山荘での楽しい食事や団らん、花崗岩の特徴ある造形を眺めながらの頂上へのアプローチと、改めて三拍子揃った名山だと感じました。日帰りでは勿体ないですよええ。

【萩原みか】燕岳は2回目。合戦小屋までが短く感じた。紅葉が遅れたおかげで合戦小屋から上の紅葉はキレイに色づき始めた頃だ。赤と黄色が入り混じる。燕山荘に荷物を置き、燕岳へ。花崗岩の白に紅葉が映え、感動した。燕山荘の夕食後はここがいかにも貴重な自然であり守られているかというお話とアルペンホルンを今回はじっくり聞く事ができた。2日目の悪天候はやはり好転ならず、低体温症の懸念があるため燕岳から中房温泉への下山が決まった。ベテラン方の天気の情報収集と、それによる決断的確さにいつもながら感心させられる。山行に参加するごとに学ぶ事があり、ご同行の皆さんに感謝します。

【塚越和子】初めての燕岳、大天井岳の縦走を楽しみに参加しました。2日目は、生憎の雨と強風の為、先に行かず、戻らざるえませんでした。でも合戦小屋でのお汁粉も、頂上のイルカ岩も、大天井の稜線も、眺められて大満足でした。イルカの背中に、座りたかったけど、流石に考えることは、皆一緒のようで、しっかりと、ロープが張られてました。当たり前ですね。来年こそは表銀座を歩きたいです。皆様ありがとうございました。

【町田美春】今回、荒天のため大天井岳への縦走は中止となり残念でした。しかし、合戦小屋でお汁粉も食べたし紅葉も見れたし、燕山荘での食事は美味しかったし、念願だったアルペンホルンの音色を聴けたし、みんなで楽しく山行できたのでとても満足しています。

【平本真二郎】今回の山行では、集合場所（穂高駅）近隣の道の駅に車中泊し準備を整えました。燕岳は2回目の山行ですが、頂上の素晴らしい山容以外あまり印象に有りませんでしたので、今回はポイントを確認しながら登って行きました。その中で感じたのは、さすが人気の山なので登山道も整備されていますが、人の多さは高尾山に匹敵するレベルでした。燕岳山頂付近は花崗岩の岩が点在し、今回も美しい山容を見ることが出来ました。また、天候の関係で大天井への縦走は出来ませんが、燕山荘の宿泊では食事を含め全てが最高で、また来たくなる山小屋でした。

【平本美恵子】北アルプス3大急登の1つ合戦尾根から燕岳、大天井岳の縦走からの一気に登山口まで下山とかなりハードな山行をチャレンジしたくて覚悟して臨みました。2日目の雨と風速15メートルの荒天で大天井岳へは中止となり残念でしたが、燕岳の白い花崗岩の山頂はすばらしかったです。燕山荘の快適な山小屋と美味しいごはん、皆さんとワイワイと楽しく過ごせてとても幸せでした。

【磯崎佳奈】行くか行かないか散々迷った燕、大天井岳でした。2日目が10時間を超えると言うことで1日目でへろへろになると思われる私にはちょっと無理かとも思ったのですが、行ってよかったです。皆さんのお陰で今回も無事下山できました。ビール美味かった！



合戦小屋



うどん・おしるこ



アルプホルン演奏



ケーキセット



夕食のひと時



講演

同好会 平日山行倶楽部 6月～9月 報告
 赤湯温泉／只見線・飯谷山／尾瀬・原の小屋 評議員 高橋 努

6月 秘湯 赤湯温泉を訪ねる山旅～三国山 (6/18～19)

宮崎則子 記

「なかなか機会のない秘湯山行です」このキャッチコピーに惹かれました！

当日は、2台の車に分乗して真夏日の関越道を北上、苗場プリンスホテルを横目で見て、ドラゴンドラと暫くは並走しながら林道を登り、登山口到着。そこから約2時間半、たっぷり汗をかいたころ赤湯温泉山口館に到着しました。

早々に、秘湯露天風呂に直行して汗を流します。肩までつかり、ゆっくり辺りを見回すとブナの新緑と青空が眩しい、眼下には清津川の清流がゴウゴウと飛沫をあげて流れ下っています。「ハア

～」このため息が言葉以上の全てを語ってくれます。

そして湯上りには、皆さん各々お好みアルコールが出るわ出るわ！あの山道を背負ってきたパワーにひたすら感動です。

泊り客は私達一行8人だけ。夕食は小屋主・山口氏の楽しい談話とチャーミングな妹さんの手料理+お酒で盛り上がりました。特に、浩宮様が皇太子時代にお泊りになったエピソードには秘話もたっぷり、こちらは勝手に山岳会会員仲間の気分になって、ますます親近感が増してしまいました。

第2弾、夕食後、ヘッドン装着しての入浴。ヘッドンを消せば真の闇夜、隣に誰がいるのかも判らない程。空には北斗七星が瞬いています。

第3弾、寝起きのひと風呂、小鳥の声を聴きながらシャキッと身体が目覚めました。

羽釜で炊いたご飯を頂き（皆さんお代わりしました）、来た道を戻りました。

そして、車で三国トンネル登山口まで移動、三国峠～三国山を往復、快晴の頂上から三国（群馬、新潟、長野）展望を楽しみました。

赤湯温泉の感動が強過ぎて三国山登山はたった二行で終わってしまいました。三国山ごめんなさい。

（参加者：東、萩原、浅田、野口、宮崎、町田、清登、高橋）



秘湯 赤湯山口館



三国山山頂

7月 只見線の山旅・飯谷山

高橋 努 記

会報「山」4月号に福島支部星賢孝会員の「只見線沿線の山といで湯」という投稿があった。2011年の豪雨で甚大な被害を受け、廃線必須と思われていた只見線が地元の懸命な努力で2022年10月に全線復旧したのだ。只見線の山旅は、かねて清登さんの希望もあったが、この記事で計画が決まった。小出から只見線で3時間、実に時間がゆったりと流れ、沿線には只見川が、これまた、とうとうと流れる。時に、川霧も流れる。ただただ車窓の景色を眺めるだけの時間が過ぎていく。

会津柳津温泉内田旅館も良かったし、登った飯谷山は山毛櫨の美林の山だった。何より「おかせりなさい、只見線」のポスターと沿線で農作業の手を止めて、大きく手を振る住民の方々に、その熱い想いの深さに頭が下がった山旅だった。

（参加者：小島、立原、東、町田、野口、清登、高橋）



朝霧ただよう只見川



飯谷山山頂付近で

9月 尾瀬ヶ原・原の小屋

高橋 努 記

今回は、本部山行委員会の「会員の宿を訪ねる山旅シリーズ」と共同開催となったので北海道支部など他支部の方々とご一緒した。初秋の尾瀬は草紅葉が始まって、人の少ない静けさに包まれていた。管理をする高妻潤一郎ご夫妻（埼玉支部会員）はお元気で素晴らしいおもてなしをいただいた。



原の小屋前にて高妻ご夫妻を囲んで



逆さ燧ヶ岳と草紅葉

社会貢献委員会【埼玉県立自然公園】クリーン登山
社会貢献委員長 若林優子

目的： 埼玉県山岳・スポーツクライミング協会クリーン登山にあわせた清掃登山の実施

実施場所： 大高取山山 約7.8km 4時間40分 時間程度 天気：はれ

参加人数： L若林優子、高橋努、林信行、中村直樹、渡邊泰子、富田容子 6名

コース： 8：50 越生駅集合-9：00 越生駅-9：10 越生神社-10：00

西高取山-11：00～12：00 大高取山（休憩および重点ゴミ拾い）-12：00

桂木山-12：30 桂木観音-13：30 越生駅

活動成果：

- ・回収ゴミ量 約5.5kg
- ・トイレ、登山道、案内板等不備なし
- ・越生町観光協会の「観光協会だより」12月号に今回の活動が掲載予定

所感：

- ・道もよく整備され、標識などはとくに破損や不備は見当たらなかった。
- ・休憩ができるような場所に菓子、飴類のごみ、瓶や缶などが落ちていた。登山口などはたばこの吸い殻が多い傾向。
- ・分岐があるところでは二手に分かれて回収ができたため、効率よくゴミ拾いができた。
- ・登山者よりお声がけいただき、励まされ、また当会の活動のアピールもできた。
- ・今後の予定：次回は気候が良い時期に実施、自然観察会との共同実施案



(一社) 埼玉県山岳・スポーツクライミング協会自然保護委員会

実施年月日	令和5年8月26日(土)	写真1 (収集ゴミの写真)
実施山岳会(部)	日本山岳会埼玉支部	
報告者	若林優子	
報告書作成日	令和5年8月27日(日)	
コース(コースタイム) 越生駅9:00-越生神社-西高取山-11:00 太高取山- 桂木山-桂木観音-13:30 越生駅 約4時間40分(休憩含む)		写真2 (参加者の写真) 
参加者名 L= 若林優子 S L= 1.高橋 努 2.林 信行 3. 中村直樹 4.渡邊泰子 5. 冨田容子 6.若林優子 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21.		
収集ゴミの種類 不燃ゴミ: 缶類= 6個 瓶(ガラス)= 3本 可燃ゴミ: 5.5Kg. 他: ペットボトル: 1個 他:		
所見・要望事項 登山道、案内板については破損や不備なし コース内のトイレは寺社道路に設置されたものになるが、清掃がよくされ、消耗品も補充され、設備不良などもなし 産業廃棄物や粗大ごみ、廃車等の投棄なし ごみはお菓子のふくろや缶のプルタブが目立った		

**第36回日本山岳会全国支部懇談会
「近くて良い山 谷川岳に集う」に参加して**

松本敏夫 記 (2023. 9. 25)

日本山岳会群馬支部主催の第36回全国支部懇談会が令和5年9月23日(土)～24日(日)、坐山みなかみ(旧水上館)で講演会・懇親会・宿泊が行われ、翌日は谷川岳インフォメーションセンターから一ノ倉沢出合いまで往復のハイキングを楽しんだ。全国から会員等158名が、埼玉支部からは4名(大山、林、本村、松本)が参加した。全国支部懇談会はコロナ禍の影響で前回の栃木支部主催から4年ぶりの開催である。

坐山みなかみのロビーで受付、宿泊部屋で休憩後、16時30分より「今、谷川岳で考える安全登山」と題して、群馬県警察谷川岳警備隊長の伊藤武氏に依る講演会が約1時間行われた。群馬県内の山岳遭難発生状況、警備隊の人員、訓練、遭難者の救出及び遭難防止活動の報告があった。

懇親会は18時30分より6階桃源の間で開催され、三国太鼓のアトラクションに続き、根井康雄群馬支部長の歓迎挨拶、橋本しをり日本山岳会会長の挨拶、みなかみ町の阿部賢一町長の祝辞、桐生恒治副会長の乾杯で懇親会が開始された。広々とした宴会場で全体像を見渡すことは困難なほどであったが、地理的制約で日頃会えない会員との懇親・親睦を深めることができた。最後に支部事業委員会の宮崎紘一委員長の中締め、次期開催神奈川支部の込田伸夫支部長の挨拶で懇親会は閉会となった。

二日目は坐山みなかみを8時に大型バスで出発し、谷川岳インフォメーションセンターに集合した。紅葉にはまだ早く、山々は緑の木々に覆われ、秋晴れの清々しい空気を感じながら、舗装された車道を谷川岳ロープウェイ駅、谷川岳山岳資料館、西黒尾根登山口、マチガ沢出合いを越えて、白毛門や笠ヶ岳を振り返りながら、一ノ倉沢出合いまで約1時間歩く。出合いでは大山支部長から一ノ倉沢の解説を聞きながら思い思いに休憩をとり、参加者全員の集合写真等を撮る。帰路は同一コースで谷川岳インフォメーションセンターに11時30分に戻り、昼食の弁当を頂いた。ここで解散となり12時30分発のバスで、水上駅または上毛高原駅まで送ってもらう。

群馬支部会員がハイキングその他の工程管理やトランシーバー等で連絡をとり、安全登山に尽力いただいたことに感謝申し上げます。



埼玉支部4名(一ノ倉沢にて)



一ノ倉沢での全体集合写真

山岳古道調査「三峯参拝道」報告

山岳古道調査PJ 山崎保夫

古道調査・三峯参拝道(三峯表参道～三峯神社～妙法が岳(奥の院)～大陽寺)

日 時 令和5年9月28日(木)～29日(金) 両日とも晴れ

メンバー L山崎保夫、中嶋信隆、浅田 稔

コース記録

9月28日(1日目)

秩父鉄道三峰口(10:00-10:25 出発)～大輪バス停(10:35)～三峯神社一の鳥居(10:40)～登龍橋・丁目標柱(10:47)～壺丁目石(10:48)～清浄の滝(11:08)～第五十二丁名石(13:35)～ヤマトタケルノミコト像(13:43)～三峯神社本殿(13:54)～宿泊先(興雲閣)(14:00)

9月29日(2日目)

(興雲閣)(8:54)～奥宮参道入り口(9:07)～奥宮参道分岐(9:17)～奥宮参道分岐(9:28)～奥宮五の鳥居(10:00)～奥宮(10:20)～地蔵峠(12:01)～お清平大陽寺入口(13:02)ここから大陽寺敷地内立ち入り禁止地域～大陽寺敷地内(立ち入り禁止区域)(12:30)～大陽寺敷地内標柱(13:30)～大陽寺敷地内から出る(14:00)～大血川溪流釣り場(14:47)～大陽寺入口バス停(15:50)～徒歩～三峰口駅(16:30)

調査記録

最初に大陽寺について記載をさせて戴きます。

現在大陽寺については立ち入り禁止となっております。大陽寺内に入ってから寺の住職とみられる方からここは「立ち入り禁止内なので出て行っていただきたい」と言われる。

「地図上から登山道を削除していただきたい」旨を昭文社の方に伝えた。との事でした。

また立ち入り禁止になった理由を大血川渓谷釣り場の管理人から聞いたところ「以前、大陽寺の敷地に不審者が入り不純物投機した」この事から大陽寺の敷地は全て立ち入り禁止となった。大陽寺への参道は木々で塞がれて、人が通れる状態ではなかった。

このような理由で、大陽寺入口バス停からの最終バスに乗れず大陽寺から三峰口駅まで3時間ほど徒歩で歩くことになった。現在は三峰口駅にタクシーは常駐しておらず、秩父市内からの迎車となるので、1時間以上は要するとの事。

今後について、日本山岳会埼玉支部として、「地蔵峠から大陽寺までの登山道」は荒廃および大陽寺敷地が立ち入り禁止、また大陽寺入口バス停まで相当な時間を有する事からしても今後は登山道として利用しないよう検討すべきである。

一日目(9月28日(木) 晴れ

三峰口駅から西武バスで大輪まで乗車する。大輪バス停から三峯神社大鳥居が見える。鳥居を潜るとかつて旅館や商店・休憩場所で栄えたであろう家並みがあった。登龍橋で荒川を渡ると三峯神社の表参道登山口である。

大輪から神社までロープウェイや車道が出来るまでは老若男女がこの登山道登って行った光景が伺える。橋の袂には登龍橋・丁目標柱や壺丁目石、奉納植樹奉納碑なるものが夥しい数が

林立していた。杉の大木の登山道を進んでいくと清浄の滝が現れた。丁名石を探しなら行くが五十二丁の全ては確認できなかった。

三峯神社に近づくにつれ宿泊施設跡や薬師堂跡とみられる建物が存在していた。

奥宮拝殿手前に五十二丁石を確認すると同時に三峯神社表参道を完徒した。日本武尊銅像を拝顔した。隋神門を潜り三峯神社本殿に参拝する。三峯神社の祭神はイザナギ、イザナミのみである。これは日本武尊が東征の時、勝利を祈願してこの二神を祭ったことに始まると伝えられている。また日本武尊を導いた山犬(オオカミ)が使いの神といわれている。三峰の名は神社の東に雲取山、白岩山、妙法ヶ岳の三つの峰が連なることから呼ばれている。

宿泊先である興雲閣に投宿した。



大輪 一の鳥居(10:40)



登龍橋(10:46)



清浄の滝(11:08)



最後の第五十二丁名石(13:35)



日本武尊銅像(13:43)



三峯神社本殿(13:54)

二日目(9月29日(金) 晴れ)

興雲閣の朝食が午前8時なので、興雲閣9時出発になった。

ここから、三峯神社奥宮(妙法ヶ岳)を目指した。いくつかの鳥居を潜り1時間20分程で奥宮(妙法ヶ岳)に登りつく。奥宮(妙法ヶ岳)から分岐点まで下り、地蔵峠まで登る。

途中、雲取山からの下山者と遭遇する。地蔵峠で昼食を摂り、大陽寺を目指すが流石に入山者は見られず、登山道も不明な箇所もあった。霧藻ヶ峰(お清平)道標から大陽寺への登山道は立ち入り禁止の立て看板あった。が敢えて下山した。大陽寺の板扉を開けて入ると冒頭に記したように、住職とみられる者から立ち入り禁止なので出ていく様にいわれた。これにより大陽寺については写真も撮れず、詳細について記載できない。

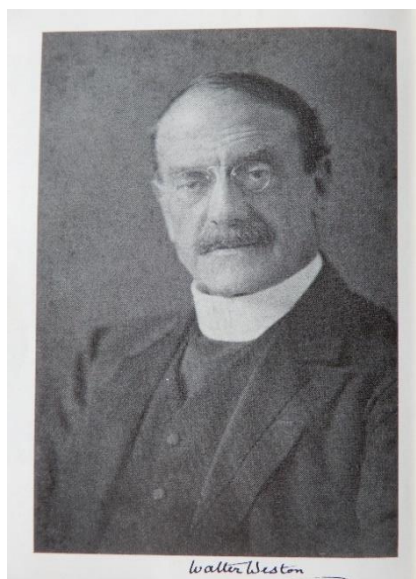
数分間、観察した結果、本堂には修行用寝具(布団)と見られる物が重なり、庭は荒れており、寺としての機能もしていない様子でした。また庭からの登山道は確認できなかった。しかし、歴史的建造物、大血川流域に残る平将門伝説等歴史的価値からすれば貴重な文化遺産です。今後、早期に立ち入り禁止区域が解除されることを望む。

なお、大血川溪谷釣り場から上りは大陽寺の敷地の為、人も車も立ち入ることが出来ません。

「山の本棚」シリーズ⑧

会員 小原茂延

山の本棚シリーズ ⑧



年譜(「山岳」82~85 抜萃他)

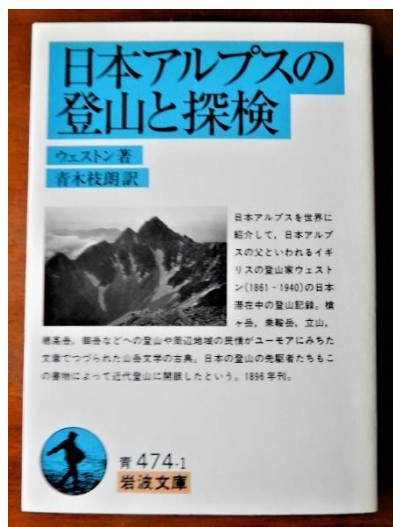
- 1861年 12月25日 イングランドのダービー近郊に生まれる。
- 1880 ダービー校卒、ケンブリッジ大、クレア・カレッジ入学
- 1886 兄ロバートとマッターホルン、ブライトホルン登頂
- 1887 文学修士(M.A)の学位取得
ベルナー・オーバーラント初訪
ヴェッターホルン登頂、「英国国教会伝道協会」(CMS)宣教師
- 1888.4.1 ウェストン神戸着初来日
- 1890(明治23).1.24 横浜港着
// .8月頃 初めての富士登山
// 11.6 祖母山登頂(外国人初登)
- 1891(明治24).7.31 浅間山登山
// 8.1 上田～保福寺峠～松本
8.5 槍の肩迄(岩崩れによる)
// 8.10 御嶽山 8.12 木曾駒ヶ岳
- 1892(明治25).8.12 槍ヶ岳
// 8.19 赤石岳(外国人初登)

ウォルター・ウェストン(1861.12.25~1940.3.27)

■「日本アルプス登山と探検」

岩波文庫 青木枝朗訳 1997版

底本は1896年ロンドンのJ・マリー社刊 1962に山崎安治・青木枝朗共訳を全面改訳した。



本人になる序文(1896.8 スイス エギッシュホルン)と、第1~16章、付録A,Bからなる。各章の山行を略記すると第一章浅間山、第二章槍ヶ岳(肩まで)、第三章木曾駒ヶ岳・天竜下

り、第四章乗鞍岳、第五章槍ヶ岳第六章赤石山、第七章針ノ木峠越え、第八章立山第九章穂高山、第十章富士山・恵那山、第十一章大蓮華、第十二章笠ヶ岳・焼山・常念岳、第十三章御嶽 となっていて他の章は民俗、宗教及び山行の装備・食料について 又、付録のAはウィリアム・ガウランド氏談話、同Bは朝鮮の除霊についてとなっている。ウィリアム・ガウランド(1842-1922)はお雇い外人として大阪造幣局の指導に当たっていた。明治11年に外国人として槍ヶ岳に初登を果たしており、翌年には立山、爺ヶ岳、野口五郎岳に登っている。越中・飛騨・信濃にまたがるこの山域をはじめて「日本アルプス」と呼んだことで知られる。ウェストンの表題書は槍ヶ岳(明治25年)をはじめ日本アルプスの主要山岳を登頂、案内人、とりわけ上條嘉門次や根本清蔵などとの心暖まる交歓を描き、平明な叙述ながらユーモアにも富み、行く先々の民情を紹介しているなど山岳文学の古典である。

1893(明治26年)

2/7 英国山岳会(A.C)入会

5/11 恵那山(外国人初登頂)

5/17 富士登山 8/8 針ノ木越え

8/11 立山登頂 8/25 前穂高岳(外国人初登頂)

1894(明治27年)7/19 親不知

7/23 大蓮華岳(白馬岳)[外国人初登頂]8/2 笠ヶ岳[外国人初]

8/3 焼岳[外国人初]8/8 常念岳[外国人初] 8/13 御嶽山

1896 秋「日本アルプスの登山と探検」ジョン・マリー社刊

1902.4.3 フランセスと結婚

6/9 横浜到着 8/23 北岳(外人初)

1903(明治36年)2.12 小島・岡野がウェストン宅訪問

8月中旬 甲斐駒ヶ岳登頂

1904(明治37)7.15 鳳凰山オベリスク初登 7.23 仙丈岳(外国人初登)

1905(明38)10.14 山岳会創立

1911(明治44)12.18 ウェストン3度目の来日(大陸~敦賀)

1912(大正1)8/14 有明山 8/15 燕岳いずれも外国人初登

8/21 槍ヶ岳東稜初登攀

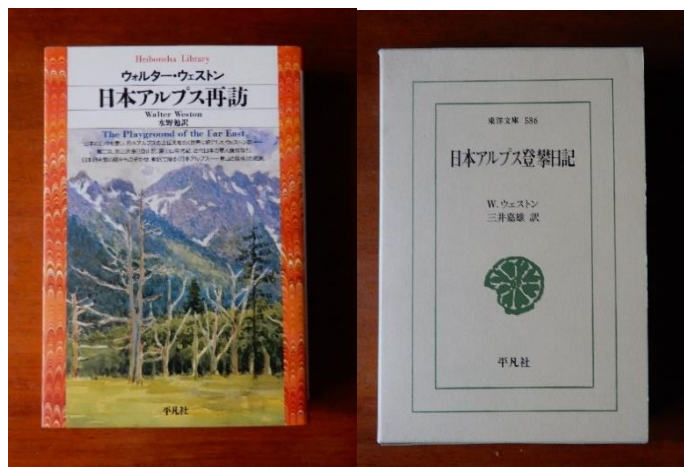
8/24 奥穂高岳南稜直登

1913.8.8 ウェストン夫妻槍東稜(女性初 8/29 奥穂南稜(同))

1915(大正4)夫妻帰国の途

1937.5.17 フランセス夫人死去

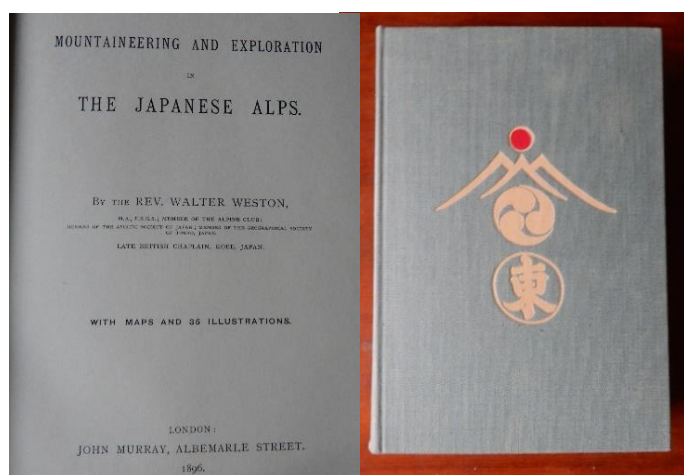
1940(昭和15)3.27 ロンドンにて脳出血で死去。満78歳



上左はウェストンによる「日本アルプス再訪」平凡社ライブラリー1996刊であるが、この本の日本語訳は1970年に「極東の遊歩場」岡村精一訳 山と溪谷社がある。

序文は志賀重昂が書き(1918 東京にて)、富士山、南アルプス、北アルプスにフランセス夫人及び案内人の根本清蔵を伴っている。(根本清蔵は妙義山の案内人)

右は「日本アルプス登攀日記」東洋文庫、平凡社1995 訳者の三井嘉雄氏が英国のアルパイン・クラブが所蔵するウェストンの手書きのフィールド・ノートから直接訳出したものという。ウェストンが日本の山岳を旅行中現地で記録したもので、A.C が所蔵するのは4年分である。1894年「ホリデイ・ツアー」他、1913年「槍ヶ岳(妻同行)奥穂、白馬」1914年「北日本アルプス、富士」



1896年 ジョン・マリー社刊の底本の復刻版

画像等は著作権上転載禁止です。

「ペンリレー」第4回 「山と私」

山行委員 町田美春

今年のゴールデンウィークに早稲田岳友会山小屋ツアーに参加させて頂いた。先輩方とテーブルを囲み山菜のてんぷらに舌鼓し美味しいお酒を飲み、和気あいあいと楽しいひと時を過ごした。このツアーでの一番の感動は、山小屋から見る鹿島槍ヶ岳の美しさ。そして、先輩方と美術館巡りで訪れた丘の上にある北アルプス展望美術館の正面にそびえる北アルプス連峰の絶景。まさに「息をのむほどの美しさ」であった。



北アルプスはよく耳にする言葉ではあったが、山岳会に入るまではどんな山があるのか等、ほとんど知識がなかった。しかし、目の前に広がる絶景に感動し、あの稜線を歩きたい、絶対あの稜線を歩きに行く!と、夢が広がった瞬間でもあった。今でもあの絶景は脳裏に焼き付いている。

私は、埼玉 50 山のひとつで平将門伝説が残る城峯山の麓で生まれ育った。城峯山は小さい頃から何度となく登った山である。毎年5月3日の山開きは、家族や友人たちと一緒に登るのが楽しみだった。山開きの朝早くに花火が上がり、ワクワクしながら母に作ってもらったお弁当と水筒、そしておやつをリュックに入れ喜び勇んで出かけたものだ。遠足や町の行事等でもよく登った。城峯山は山頂から 360° 全方位見渡すことができ、とても眺望の良い山である。伝説の将門の隠れ岩には鎖場があり、ちょっとした冒険で楽しかったのを覚えている。

私が生まれ育った田舎は、いわゆる僻地と言われているところで小学校まで片道 3km、中学校に至っては片道 7~8 km程あった。ついでをいえば、保育所も小学校の隣にあり朝はお兄さん、お姉さん達と共に登所し、帰りは幼馴染と一緒に道くさしながら毎日雨や雪にも負けず風にも負けず、良く通ったものだ。そのお陰で基礎体力が培われたのだと思う。兄弟や友人達と山を駆け回り虫取りや木登り、常に自然の中で動き回っていた。「山」は、常に身近な存在であった。



2019 年から猛威を振るった新型コロナウイルスは、世界中の人達を脅威に陥れ何百万という尊い命が奪われた。私たちの生活様式を大きく変化させた。出口の見えないトンネル内を彷徨っているかのような日々だった。医療従事者として、毎日が闘いだだった。自分自身も感染したら、家族に感染させてしまったら、不安との闘いでもあった。休みでも外にも出られない日々が続いたが、気分転換と運動

のために家の近くを walking するようになり、そこから近くの低山に行くのが日課となった。天覧山・多峯主山は子ども達が小さい時に何度か行ったことがある程度だったが、雨と仕事が日勤の時以外はほぼ毎日行くようになった。ルートも沢山あることを知り、四季を感じながら山の楽しさを知った時間でもあった。そんな時に JAC 埼玉支部事務局の林さんに多峯主山で声をかけて頂き、やま塾の存在を知り参加を希望した。そして、日本山岳会埼玉支部にも入会したが、皆さん健脚の方達ばかりで低山を少しばかりかじっている程度の私が入るところではなかったと後悔をしてしまった。



今年から、少し自分の時間が持てるようになり支部山行や個人山行に行けるようになったこと、生粋の田舎育ちで基礎体力には自信があること、山仲間が沢山できたこと等 JAC に入ってよかったと思う日々である。これからも楽しく「山」を続けたいと思う。

新入会員 自己紹介

事務局長 林 信行

《宮内有加 会員番号 A0548》

登山を初めて 8 年になります。私は、長野県大町市で育ち、蓮華岳、爺ガ岳、鹿島槍ヶ岳を見ながら育ちました。中学や高校時代には学校登山を経験しましたが、その後、個人で山に登ることはありませんでした。しかし、年を重ねる中で、高校時代に登る予定だった白馬岳に登りたいと思うようになり、2015 年、念願だった白馬岳に登頂。お天気に恵まれ、白馬岳から見た景色に感動し、すっかり登山にはまりました。夢は、北アルプスの稜線をつなぐことです。今年は蓮華岳～白馬岳までつなぐことができました。どうぞよろしくお願ひします。

《岡部勇人 会員番号 A0557》

この度、埼玉支部の準会員として入会させていただきました岡部勇人と申します。子供の頃から自然が好きだったこともあり、今まで何となく山に登ってきましたが、正しい知識や確かな技術を身につけ、様々な山を安全に登りたいと思い、入会致しました。若輩者で至らぬところも多々あるかと思いますが、これから知識や技術の習得に努めるとともに、何よりも安全で楽しい山登りを沢山していきたいと思っております。何卒宜しくお願ひ致します。

事務局からのお知らせ

事務局長 林 信行

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2023年10月10日現在

会員	123名	準会員	26名	計	149名
----	------	-----	-----	---	------

【入 会】

会 員			準会員		
17151	石井 孔久 (世田谷区)	8月	A0548	宮内 有加 (草加市)	6月
			A0557	岡部 勇人 (さいたま市)	6月

【退 会】

会 員			準会員		
16839	丹治 洋介	6月			
16868	丹治 三恵子	6月			
16666	石井 和春	9月			

令和5年度年次晩餐会のご案内

[日 時] 令和5年12月2日(土)

受付開始 12時30分

講演会・展示会 開始 13時00分

年次晩餐会 開会 17時00分

[場 所] [京王プラザホテル](#)

講演会 本館4階 花AB

展示会 本館5階 コンコード・ボールルームC

年次晩餐会 本館5階 コンコード・ボールルームAB

[参加費] 20,000円(支部に入金)

[入場料] 講演会・展示会のみ500円(晩餐会出席者は無料)

晩餐会記念懇親山行(自由参加)

12月3日(日) 奥武蔵・天覧山(埼玉県)

…天覧山は明治16年に明治天皇が山頂で閲兵したことが名前の由来です。

参加費：無料

集 合：10時 西武池袋線 飯能駅改札前(改札は1ヶ所)(急行停車駅)

受 付：改札前にて9時30分～10時

(参考) 西武線池袋駅発9:03—飯能駅着9:51

行 程：集合受付後、人数がそろったところで分散して出発。

埼玉支部員が適宜ご案内します(JAC旗を目印に)。

支部グループでの行動も結構です。登山届は一括して提出しますが、

保険は各自加入ください。

コース：飯能駅北口—能仁寺横登山口—天覧山197m—多峯主山270m—飯能駅

(途中で昼食・交流)(14時頃解散予定)(歩行時間3時間程度)

担 当：山行委員会、首都圏4支部(神奈川、東京多摩、千葉、埼玉)

問い合わせ：山行委員会(本部) 高橋 努 TEL 090-2906-4356

e-mail sanko@jac.or.jp 受付開始 12時30分

埼玉支部忘年山行・懇親会

■12月16日(土) 陣見山(531m)

集 合：秩父鉄道 波久礼駅 10時集合…解散=樋口駅

懇親会：15時ごろから 手打ちそば・うどん お食事「さくらい(別館 あすなろ亭)」

担当：山行委員会+事務局 林

参加の申込みは12/10締切り 事務局 林まで

※詳細は「忘年山行・懇親会」の案内を御覧ください。

** 第5期 「埼玉やま塾」 終了しました **



雲取山荘

2023年度 公益社団法人日本山岳会埼玉支部予定 11月～3月

月	日・曜日	担	摘 要	場 所	開始時間
11月	4日(土)	支	⑧埼玉やま塾 机上講習会	浦和コミセン	15:00～
	11日(土)	山	埼玉50山	秩父御岳山	
	15日(水)	支	第8回支部委員会	浦和コミセン	19:00～
	中旬	広	「彩の山 埼玉支部報第40号」発行		
	25日(土)	山	月例山行	鎌倉アルプス	
	26日(日)	自	大高取山「秋の自然観察会」	大高取山	中止
	25日前泊～26日(日)～ ～27日(月)～	山	月例山行	雲取山(26日SMSCAボツ カ)	中止
12月	2日(土)～3日(日)	自	龍ヶ岳忘年山行	龍ヶ岳	
	3日(日)	本 部	晩餐会記念懇親山行(埼玉支部担当)	天覧山～多峯主山	
	16日(土)	山	支部忘年山行・忘年懇親会	陣見山	10:00 集合
	20日(水)	支	第9回支部委員会	浦和コミセン	19:00～
1月	17日(水)	支	第10回支部委員会	浦和コミセン	19:00～
	13日(土)	山	新入会員ウエルカム山行	養山(美の山)	
	20日(土)	安	安全登山講演会「埼玉県警察山岳救 助隊の話」副隊長 築井 功次郎講師	埼玉会館 3C会議室	14:00～16:00
2月	4日(日)	山	埼玉50山	笠取山	
	10日(土)～11日(日)	山	四季の山・冬山	八ヶ岳・北横岳	
	18日(日)	支	古道調査講演会	埼玉会館 7A会議室	9:00～12:00 予約
	21日(水)	支	第11回支部委員会	浦和コミセン	19:00～
3月	10日(土)	安	安全登山講習会「山のファーストエ イド(初期救急)よもやま話」 恵 秀彦講師	埼玉会館 3C会議室	13:00～17:00
	中旬	広	「彩の山 埼玉支部報第41号」発行		
	20日(水)	支	第12回支部委員会	浦和コミセン	19:00～
	23日(土)～24日(日)	山	四季の山・冬山	硫黄岳	
	23日(土)	自	講演会「埼玉の自然を知ろう(仮題)		

2024年度

4月	13日(土)	総	埼玉支部総会・懇親会	埼玉会館 7A会議室	13:30
----	--------	---	------------	------------	-------

【編集後記】

コロナ対応もだいぶ緩やかになってきたので久しぶりにヨーロッパアルプスの山に出かけました。花の一番美しい7月のスイスです。マッターホルンの北壁や朝日に染まる穂先が湖面に映るのを間近にみてとても感動の多い山旅でした。そのあと、スケッチクラブで取り組んできた岩の殿堂劔岳に登りました。下山路を早月尾根にとりましたが以前より登山道がひどく荒れているのを感じました。コロナの時期に登山者が減ったのと小屋番が代わりバイト中心の運営になったのが原因らしい。ひところまでは小屋の主が時間を見つけては補修に当たっていたと聞きます。時代の趨勢は山の中にも色濃く表れていると感じました。これから寒さに向かう季節どうぞ皆様ご自愛ください。(橋本)

公益社団法人日本山岳会 埼玉支部報 第40号 2023年11月20日発行

発行者：公益社団法人日本山岳会 埼玉支部 支部長 大山光一

事務局：350-0201 埼玉県坂戸市赤尾1910 林信行方

電話：080-2256-4829 Email: stm@jac.or.jp

埼玉支部ホームページ：https://jac1.or.jp/saitama/